

日本作物学会講演会 講演要旨 PDF ファイルの作成手順

— Microsoft Word で原稿を作成, Adobe Acrobat 5.0 で PDF ファイルに変換 —

～ Windows Xp (2000) の場合 ～

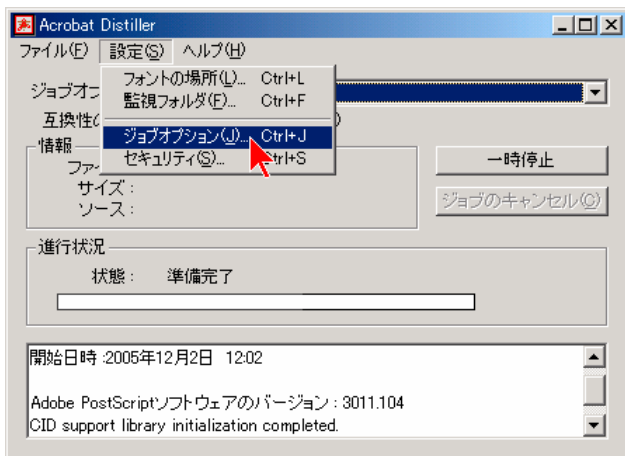
本文書では, Microsoft Word を用いて作成した講演要旨原稿を, Adobe Acrobat 5.0 を用いて PDF ファイルに変換する手順を示します. なお, 講演要旨集の印刷時や, J-Stage におけるオンライン公開時のトラブルを避けるため, PDF ファイルの作成にあたっては学会が指定する仕様に準拠していただく必要があります. そのためには, Acrobat を用いて PDF ファイルを作成する際の設定情報を記録した.joboptions ファイルを利用して Acrobat を設定する方法が簡便です. ここでは, Acrobat を用いて PDF ファイルを作成する際の設定情報を記録した.joboptions ファイルを利用して, 講演要旨 PDF ファイルを作成するための手順を示します. なお, 本文書は Windows Xp (2000) をお使いの方を対象としていますので, Windows Me (98/95) をお使いの方は別文書をご参照下さい.

※前提条件 : Microsoft Word および Adobe Acrobat 5.0 が適切にインストールされていること.

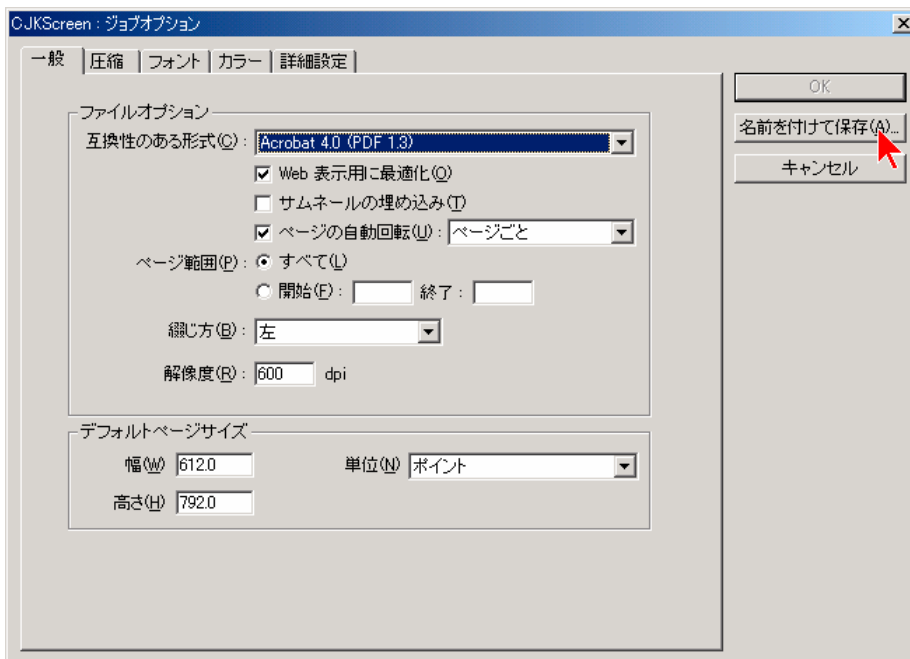
※下記の例では原稿の作成に Microsoft Word を使用していますが, アプリケーションが備えている印刷機能を経由して PDF ファイルを作成しますので, Word 以外のアプリケーションをお使いの場合でも印刷機能があれば本文書の手順が応用できます. その場合はテンプレートがありませんので, 余白の設定にご注意下さい.

1. 講演会ホームページ (学会ホームページ (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/cssj/>) よりリンク) にて公開されている Microsoft Word 用テンプレートファイルと Adobe Acrobat 用.joboptions ファイルをダウンロードします (本文書の PDF ファイルにも添付されています).
2. Word 用テンプレートには適切な余白が予め設定されていますので, これを利用して講演要旨の原稿を作成し, 保存しておきます.
3. Acrobat Distiller 5.0 を起動します (「スタートメニュー」—「プログラム」—「Acrobat Distiller 5.0」).

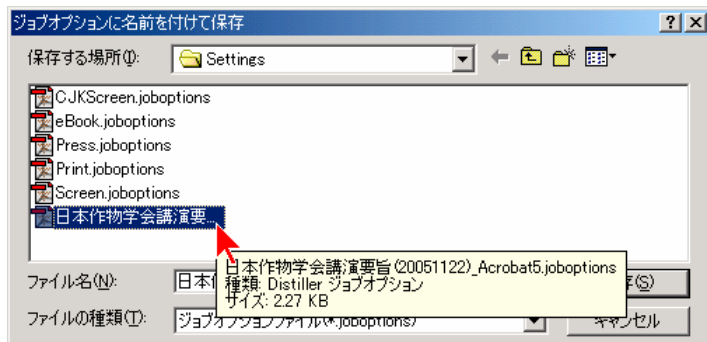
4. 「Acrobat Distiller」ダイアログボックスが表示されますので、「設定」メニューから「ジョブオプション」を選びます。



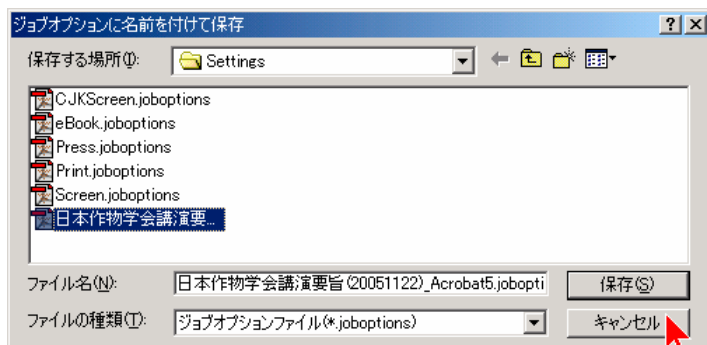
5. 「ジョブオプション」ダイアログボックスが表示されますので、「名前をつけて保存」ボタンをクリックします。



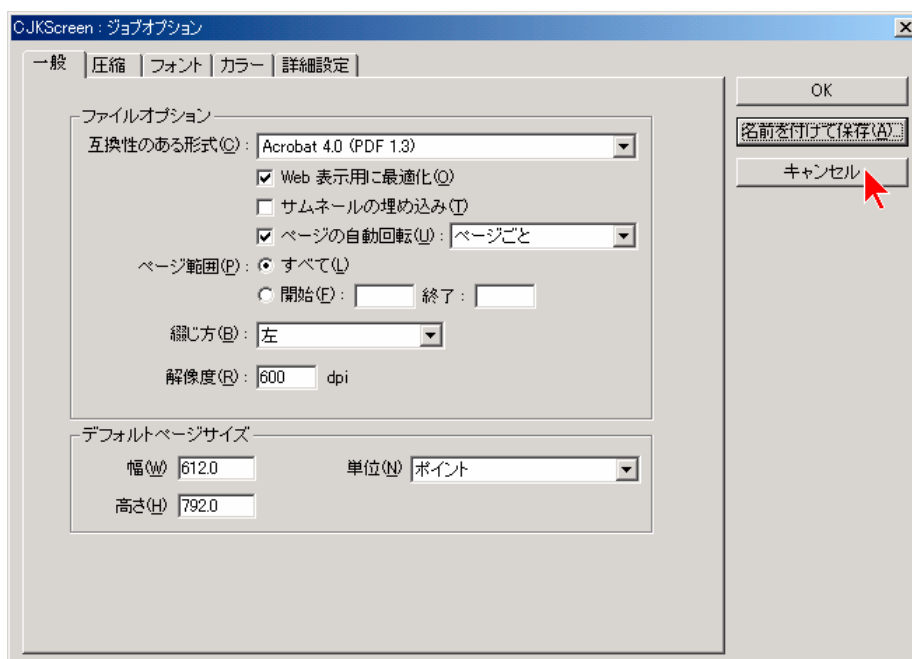
6. 「ジョブオプションに名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されます。標準のジョブオプションファイルのアイコンが並んでいるエリアに、予めダウンロードしておいた Adobe Acrobat 用.joboptions ファイル（ここでは「日本作物学会講演要旨(20051122)_Acrobat5.joboptions」）をドラッグアンドドロップするか、もしくはコピーして貼り付けます。



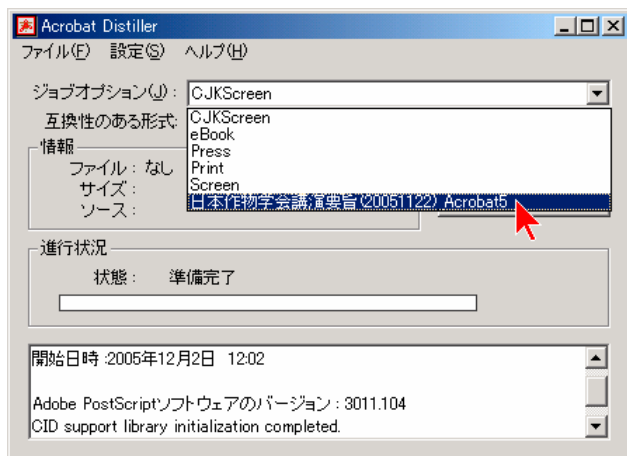
7. 「キャンセル」ボタンをクリックします。



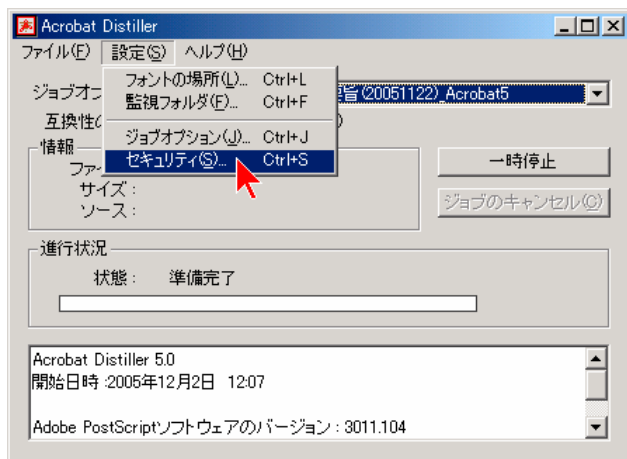
8. 「ジョブオプション」ダイアログボックスが再び表示されますので、「キャンセル」ボタンをクリックします。



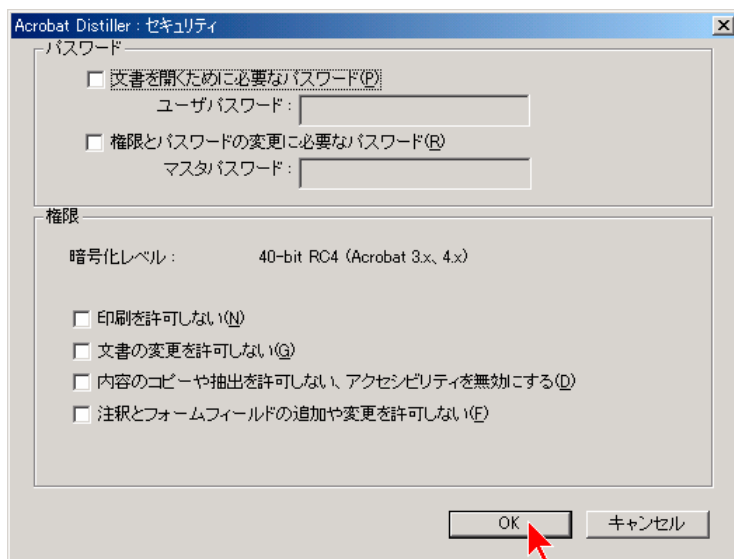
9. 「Acrobat Distiller」ダイアログボックスに戻ります。「ジョブオプション」ドロップダウンボックスの中から、先ほどコピーした.joboptions ファイルと同名の項目を選択します（ここでは「日本作物学会講演要旨(20051122)_Acrobat5.joboptions」をコピーしたので「日本作物学会講演要旨(20051122)_Acrobat5」).



10. 「設定」メニューから「セキュリティ」を選びます。

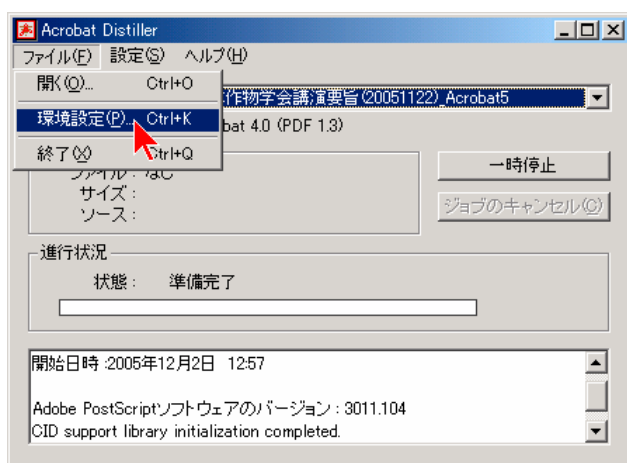


11. 「Acrobat Distiller : セキュリティ」ダイアログボックスが表示されます。「パスワード」が「文書を開く」「セキュリティの変更」ともに設定されていないこと、「許可しない」の4つのチェックボックスがいずれもチェックされていない(□)ことを確認して、「OK」ボタンをクリックします。

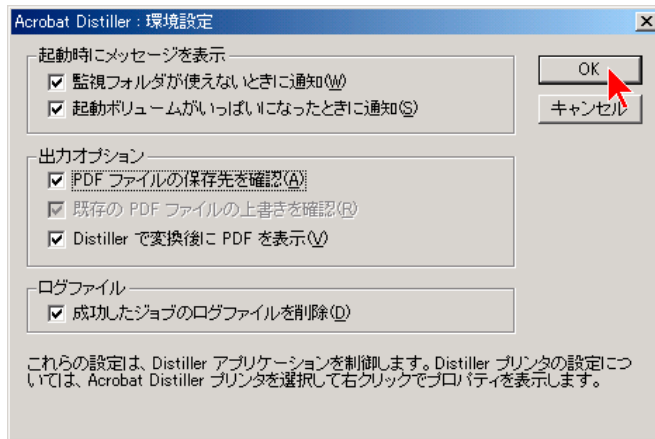


※重要な注意: 講演要旨集の印刷に支障が生じますので、セキュリティ機能を用いた権限の制限は一切行わないで下さい。

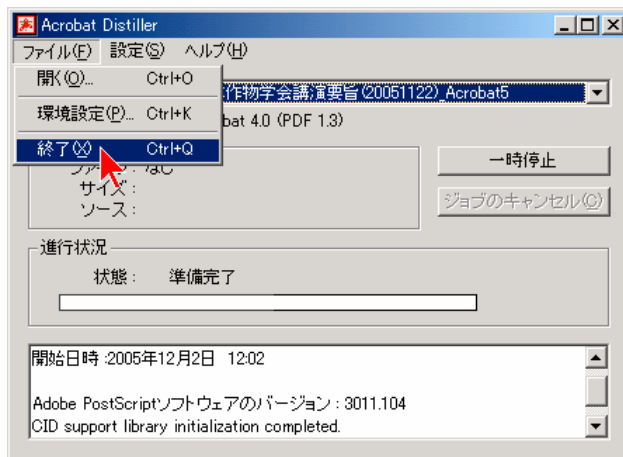
12. 「Acrobat Distiller」ダイアログボックスに戻ります。「ファイル」メニューから「環境設定」を選びます。



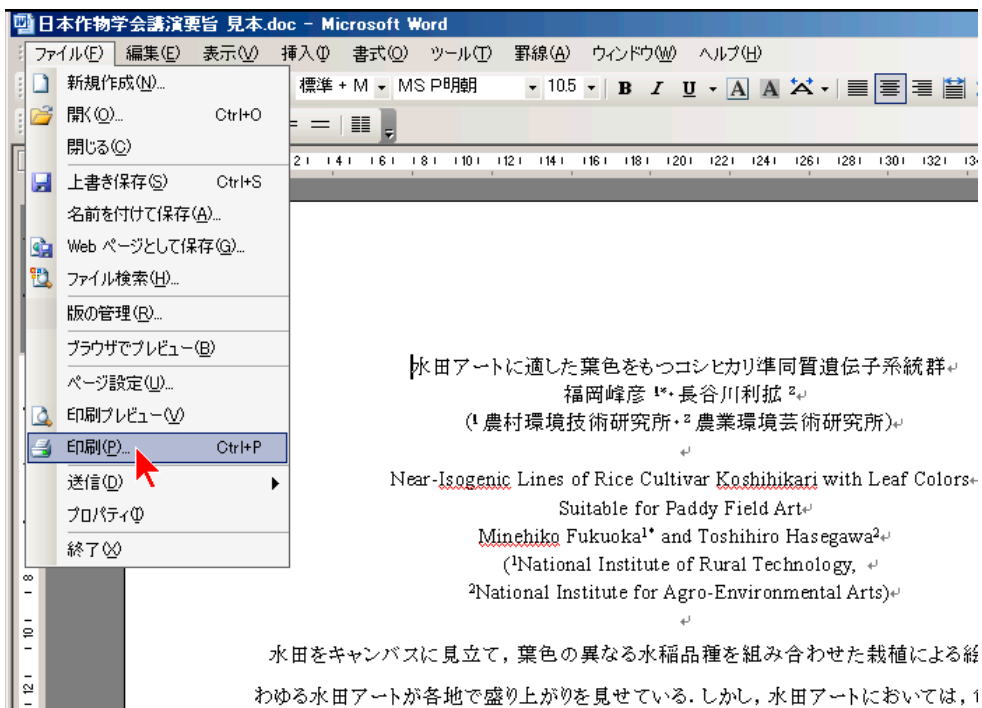
13. 「Acrobat Distiller : 環境設定」 ダイアログボックスが表示されます。図のように設定し、「OK」 ボタンをクリックします。



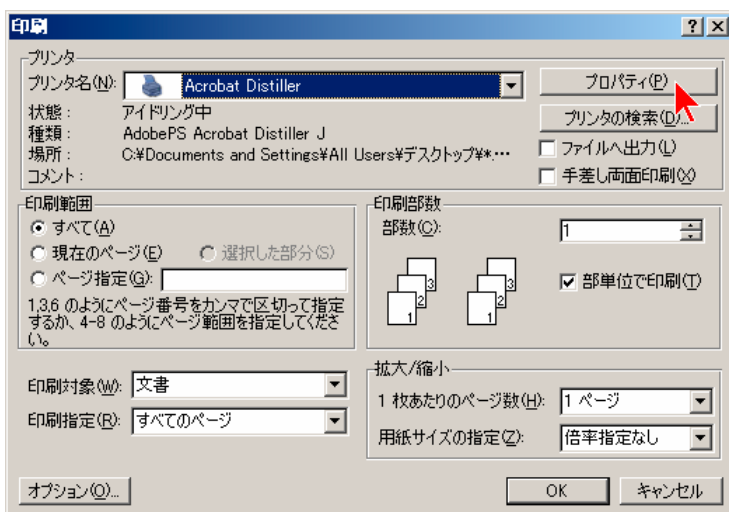
14. 「Acrobat Distiller」 ダイアログボックスに戻ります。「ファイル」メニューから「終了」を選びます。



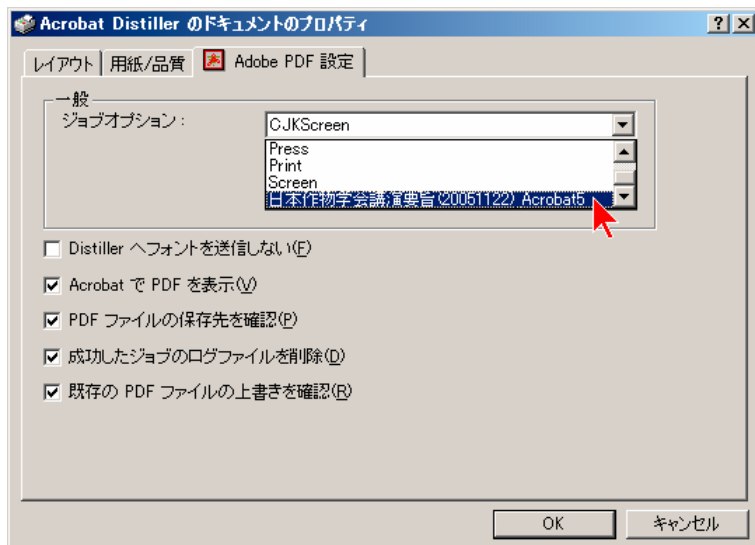
15. 保存しておいた講演要旨の原稿を Word で開き、「ファイル」メニューから「印刷」を選びます。



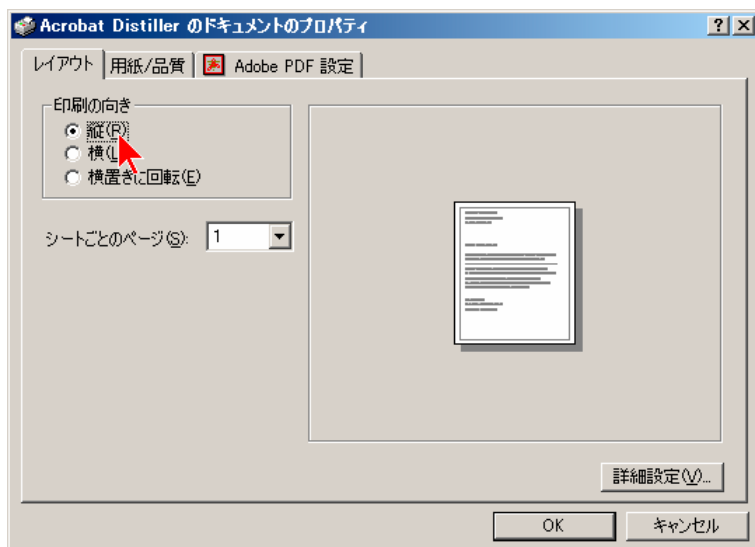
16. 「印刷」ダイアログボックスが表示されます。「プリンタ名」ドロップダウンボックスから「Acrobat Distiller」を選びます。続いて「プロパティ」ボタンをクリックします。



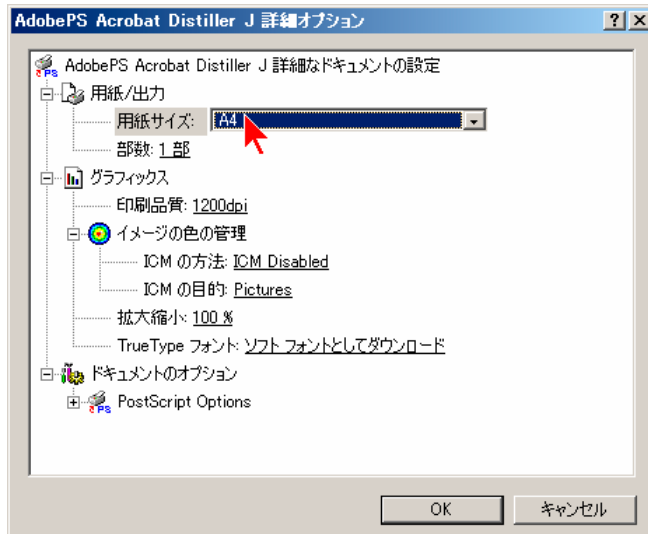
17. 「Acrobat Distiller のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。「Adobe PDF 設定」タブをクリックし、「一般」の中にある「ジョブオプション」ドロップダウンボックスから、先ほどコピーした .joboptions ファイルと同名の項目を選択します（ここでは「日本作物学会講演要旨(20051122)_Acrobat5」をコピーしたので「日本作物学会講演要旨(20051122)_Acrobat5」）。また、「Distiller へフォントを送信しない」のチェックを外し (□) , 「PDF ファイルの保存先を確認」をチェック (☑) します。



18. 「レイアウト」タブをクリックし、「印刷の向き」の中の「縦」ラジオボタンを選択します。続いて、「詳細設定」ボタンをクリックします。



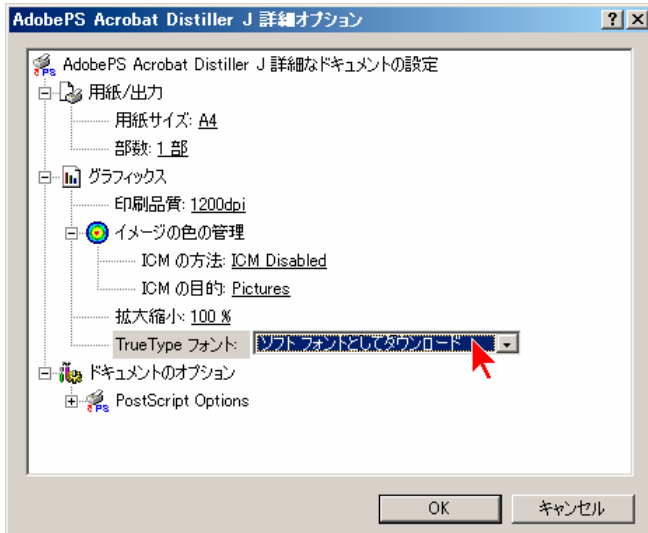
19. 「AdobePS Acrobat Distiller J 詳細オプション」が表示されます。「用紙サイズ」ドロップダウンボックスから「A4」を選びます。



20. 「印刷品質」ドロップダウンボックスから「1200dpi」を選びます。



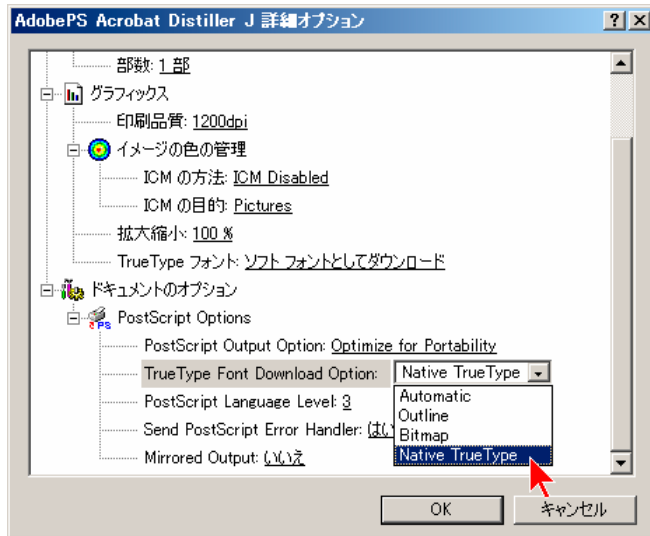
21. 「TrueType フォント」ドロップダウンボックスから「ソフトフォントとしてダウンロード」を選びます.



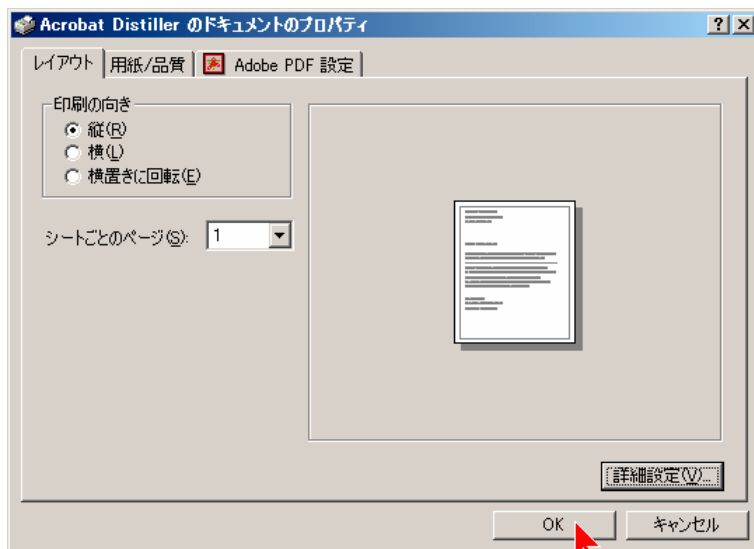
22. 「PostScript Options」の左隣の マークをクリックします.



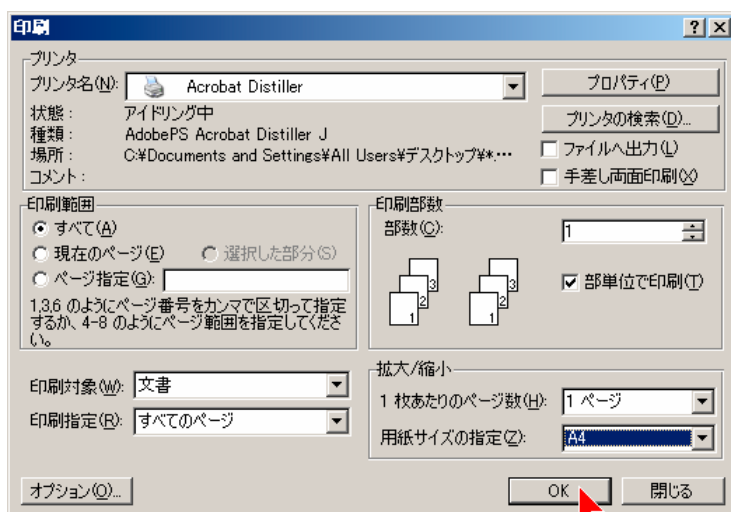
23. 「TrueType Font Download Option」 ドロップダウンボックスから「Native TrueType」を選びます。続いて「OK」ボタンをクリックします。



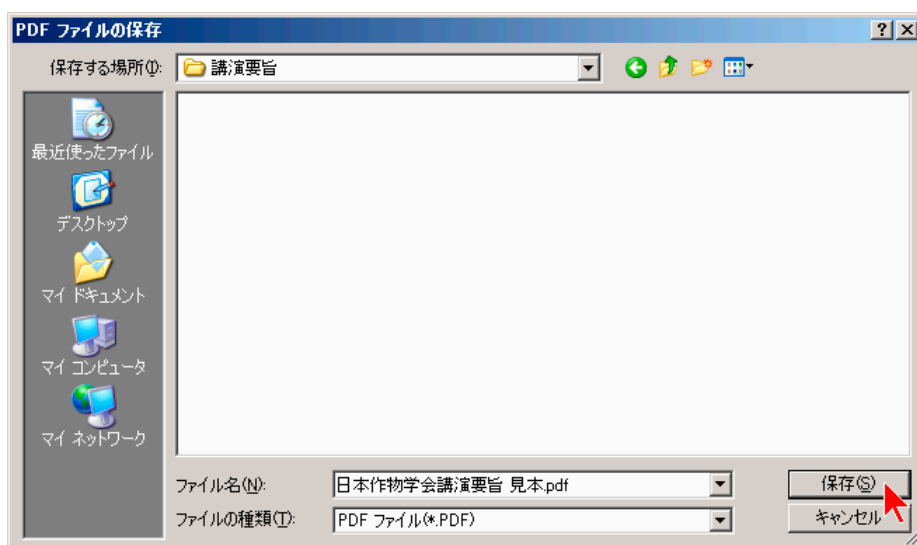
24. 「Acrobat Distiller のプロパティ」ダイアログボックスが再び表示されます。「OK」ボタンをクリックします。



25. 「印刷」ダイアログボックスが再び表示されます。「拡大/縮小」の中の「1枚あたりのページ数」が「1ページ」に、「用紙サイズの指定」が「倍率指定なし」もしくは「A4」になっていることを確認し、「OK」ボタンをクリックします。



26. 「PDF ファイルの保存」ダイアログボックスが表示されますので、保存先とファイル名を指定し、「保存」ボタンをクリックします。



27. フォントが埋め込まれた講演要旨 PDF ファイルが作成されます。原稿作成要領に準拠しているか、また文字や図表が意図した通りに表示されているかを十分確認して下さい。カラー画像を貼り付けた場合は、講演要旨集では白黒に変換して印刷されますので、白黒印刷でも内容の理解に支障がないことを必ず確認して下さい。問題がなければ、講演会ホームページよりアップロードして下さい。

The screenshot shows the Adobe Acrobat interface with a PDF document titled "日本作物学会講演要旨 見本.pdf". The document content is as follows:

水田アートに適した葉色をもつコシヒカリ準同質遺伝子系統群
福岡峰彦¹・長谷川利雄²
(¹ 農林環境技術研究所・² 農業環境芸術研究所)

Near-Isogenic Lines of Rice Cultivar Koshihikari with Leaf Colors
Suitable for Paddy Field Art
Minehiko Fukuoka¹ and Toshihiro Hasegawa²
(¹ National Institute of Rural Technology,
² National Institute for Agro-Environmental Arts)

水田をキャンバスに見立て、葉色の異なる水稲品種を組み合わせた栽培による絵画的表現、いわゆる水田アートが各地で盛り上がりを見せている。しかし、水田アートにおいては、色のバリエーションを得るために全く異なる品種が混植されることから、収穫物は混米として扱われ、ほとんど商品価値がない。そのため、一般の農家には導入し難く、村おこしの一発芸の域を脱し得ないものであった。葉色のバリエーションが緑、黄および紫の3色程度しかないことが色彩表現上の大きな制約となっていた。前者らはこれらの問題を解決するため、基本色であるコシヒカリの緑に加え、赤、青、ほとんど黒に近い紫、ほとんど白に近い斑入りの4葉色をもつ、コシヒカリの準同質遺伝子系統群を作出した。単位面積あたりの基本3原色系統(赤、緑、青)の個体数を調節することにより、デザインによる中間色の表現が可能となり、ほとんど黒に近い紫と、ほとんど白に近い斑入りを組み合わせることで、遠目にはほぼ全ての色を表現できるようになった。またこれら系統は、葉色が異なるだけで米粒の外観品質や食味はコシヒカリと同一であり、流通過程では同一品種として取り扱うことができることから、混米の問題を解消した。本系統群の登場により、水田アート表現の可能性が色彩面において大きく向上すると期待できる。また、生産～販売のプロセスには何ら悪影響を及ぼさないことから、新幹線前線のように高い露出が得られる水田では、水田広告により農家に副次的な収入をもたらすことも期待できる。今後、デザイン機能を備えた水田アート対応型田植機の開発が望まれる。

第1図 本系統群を用いた作画例(赤富士、葛飾北斎)

第2図 本系統群を用いた作画例(神奈川沖 浪裏(富嶽三十六景)、葛飾北斎)